



「マチとヒトが交わる接点を 現代美術館に担ってほしい」

大西 一史

「アート」という視点を持つことで 市が抱える課題を解決に導く

大西 日比野さんが館長に就任されてまもなく1年ですね。振り返ると、平成19(2007)年度の「HIGO BY HIBINO 展」を皮切りに、熊本のまち・人と深く関わるアートプロジェクトを数々手がけてこられました。その活動を見てきましたので、「日比野さんを館長にお迎えしたら、敷居が高く感じてしまいがちなアートを、もっと市民の身近に誘ってくださるんじゃないか」と思い、就任をお願いしました。正直なところ、「果たして引き受けていただけるだろうか?」という不安はありましたが(笑)。快諾いただき、ありがとうございました。

日比野 現代美術館(以下、現美)の館長に就任した際、「人々との関わりとプロセスを大切にしたいアートプロジェクトや、土地の持っている力を発信する活動を積極的に展開していきたい」と思い、その準備をこれまでの1年間、少しずつ行ってきました。例えば、市役所のいろいろな課を訪れて本市の課題や困りごとを職員から直接聞き、「アート」という視点から検証することで解決策を導き出していく「御用聞き」という活動。きっかけは「芸術が関わることで発想を転換でき、難題も解決していけるのではないか?」という思いでした。これまでの1年間で4回ほど開催しましたが、イメージは市役所の中に美術部を作るような感じ。活動を通して各部署にアートの視点で自分たちの役割を考えていけるような人たちを少しずつ増やし、その結果、美術館の人の心に働きかける機能が、まちの中でも感じられる都市にしていきたいですね。

大西 「御用聞きをやられる」と聞いたとき、「え?将来的に市長をめざしていらっしゃるのか?」と思いましたが(笑)。「社会課題をアートのチカラで解決していくんだ」というアプローチを聞いてとてもうれしくなりました。しかも、ディスカッションしている様子を写真で拝見したのですが、職員がとても生き生きと楽しそうにしているんですよ。仕事とアートがつながっていることを自覚することで、職員はアーティストになる。新しい意欲がわいてくる。まさに日比野館長には熊本のやる気を引き出していると思います。

これまでのアートプロジェクトの歩み

2007年度
HIGO BY HIBINO 展



熊本の「街」「人」と日比野さんが、約1年前から検討を重ね作り上げた展覧会。会場内に築城400年を記念した巨大な石垣を制作しました。

2007「日比野克彦 HIGO BY HIBINO」展会場風景

2008年度
MATCH FLAG PROJECT in KUMAMOTO



サッカーワールドカップに向けて日本と対戦国の国旗をデザインした旗を作り、両国を応援するアートプロジェクト。現在も国内外で進行中。

2008「マッチフラッグ・プロジェクト」

2016年度
熊本復興応援 マッチフラッグ



熊本地震からの復興と、ロアッソの応援のために下通アーケードでフラッグを作成。ロアッソの選手や、通行中の市民と一緒に作りました。

2016「アジア代表日本 熊本復興応援マッチフラッグ」

現代美術館の開館から20周年。 「アトラボマーケット」が誕生予定!

日比野 10月12日で現美は開館20周年の節目を迎えます。その記念事業として考えているのが、現在空いている元カフェスペースとミュージアムショップを統合し、ものづくりの楽しみを通して市民交流ができる「アトラボマーケット」をオープンさせることです。私が熊本にいたときはなるべくここにいて、市民や市職員と気軽に手を動かしながら話ができるような場所にしたいですね。また、アートの視点で話し合う中で、出てきたアイデアや準備中の取り組みは壁に貼り出して、市民がそれを見て「あ、今こんなことに取り組んでいるんだな。おもしろそう!」とか、「これなら私も手伝えるな」とか感じてもらえたらいいですね。特に現美は街なかに位置し、買い物をしながら「いつの間にか美術館の中に入っていた」というような、構えずに足を運べる利便性を持っています。

大西 確かに、スペース的に広いわけではありませんが、街なかにとってもなじんでいる美術館ですよ。比較的似ているのは、ニューヨーク近代美術館(以下MoMA)でしょうか。30年ほど前ニューヨークを訪れた際、「この美術館があるから街なかや生活の中に普通にアートが浸透しているな」という気づきを得ました。そんな場が日本にあればいいなと思っていたら、熊本にも現美ができた。本当にうれしかったですね。今後、職員が館長と対話することで新しい発想が生まれ、アートが街ににじみ出していくと、世界にも類を見ない場所になっていくと思います。私がめざすまちの姿の一つに「地域主義」というのがありますが、地域との関わりを深める接点を、これからの現美が担っていってくれると期待しています。

街なかの文化と、人をつなぐ存在 「文化リンクワーカー」に期待

日比野 少し前にMoMAで「美術館に行くことで脳が刺激を受け、認知症の症状が進行するスピードを緩和できる」という話が話題になりました。「文化的処方」って言うんですけど、この処方を受けられ